

科目名	日本文化論特講 I	担当者	ノグチ ケイコ 野口 恵子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>古代の日本文学作品を取り上げる。日本の古代には人々が共有していたルールが存在していた。もちろん現在でもそうした共有ルールは存在しているが、21世紀の我々からすれば、つい我々のルールを当てはめて古代の人々の理解しようとしてしまう。それでは古代の人々の思考をきちんと理解することはできない。作品を読む際も同様で、古代の人々の共同性を想定する必要がある。こうした点を踏まえ、文学の生成と展開の様相は、どのようなものなのかを自ら考え、その時代の文化的な特徴を捉えることを目的としたい。また、資料の扱い方、分析の方法といった研究手法も身につけることも目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 研究活動をしながら、モノの見方やモノに対する判断力を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 ①古代の人々は自らを取り巻く状況をどのように捉えていたのか理解する。 ②新たなモノの捉え方を身につける営みの連続により、現代社会における異文化に対する理解を深め、適用する。 ③研究史を整理・把握することで、これまでの研究状況とこれからの課題を指摘する。 ④修士論文の執筆時に必要とする研究手法を、基本教材から体得し応用する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio を利用して、個別指導を行う。受講者が複数の場合は、受講者同士の協働学修も行う。自由な質疑応答やディスカッションを歓迎する。 【学修方略 (LS) と学修時間】 ①まずは基本教材を精読し、各章ごと内容をまとめる。そして課題に取り組む。課題に対する理解が深まらない場合は、同テーマの参考図書を精読すること。比較することで、他者との考えの違いに気づき、理解を深められる。(自習)【SBO①】【20時間/レポート1本作成準備】 ②課題に沿って、用例や情報の収集を行い、整理と分析を行う。(自由研究)【SBO②】【10時間/レポート1本作成準備】 ③レポートをの草案を作成する。その際、序論+本論+結論の構成に基づくこと。(レポート作成)【SBO③】【15時間/レポート1本作成】 ④manaba folio の掲示板機能を利用して受講者同士のディスカッション、あるいは複数回の教員による個別添削指導を受け、改訂した最終稿を提出する。(ディベート)【SBO④】【5時間/ディスカッション・レポート1本作成】</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1) 締め切り→6月末(初稿) 教材1のレポート課題(2) 締め切り→8月末(初稿) 後期：教材2のレポート課題(1) 締め切り→10月末(初稿) 教材2のレポート課題(2) 締め切り→12月末(初稿) なお、いずれの最終稿提出期限は、学事歴で定められた日までとする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題にきちんと答えられていることは当然だが、レポートの形式(構成・論証・引用方法など)が守られているか、指導を受けた内容を踏まえているか。
	観察記録	20%	提出物の有無や、メールもしくはmanaba folioでの活動度、レポート個別添削指導に対する反応の有無。
履修者への要望	<p>基本教材に書かれている専門用語等、身近ではない、理解できないなどの内容がある場合は、遠慮なく教員に質問してほしい。もちろん、自分なりにまず調べてからである。 また、対面授業ではないため履修者の理解度を先行して指導することが難しいので、なるべくメール(noguchi.keiko@nihon-u.ac.jp)かmanaba folioで交流したいと考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 古橋信孝 教材名： 『文学はなぜ必要か 日本文学&ミステリー案内』（笠間書院・2015年） ISBN:978-4-305-70784-0 2400円+税
	なぜ文学が人間に必要なのかを考えている一書。同時に、言葉とはどのようなものかという問いに向き合いながら、文学の面白さと作品が成立した時代にはどのような問題を孕んでいたのかなどにも触れている。こうした考証を通して、日本語の文学の流れにまで言及している。
参考図書	古橋信孝『神話・物語の文芸史』（ペリカン社・1992年）、同編『日本文芸史』[全8巻]（河出書房新社・1986～2005年）
履修上のポイント	各時代を代表する文学作品を取り挙げている。それぞれの時代がどのような時代だったのか、また時代によって文学の性質が異なることも留意してほしい。加えて、なぜその文学がその時代に要求されたのかについても考えてほしい。なお、この教材は、著者がすでに論文などで書いた内容を踏まえ書いている箇所が多々あるので、必要に応じて著者の論文なども読む方が理解が深まるだろう。
レポート課題 1	第1章から第6章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを理由を添えて述べなさい。（3000字） 留意点： 各章のタイトルは疑問形式で付されている。その問いに対して、著者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えを持ったのかを述べること。
レポート課題 2	第7章から第12章までの中から一つの章を取り上げ、そこで議論されている問題点について説明した上で、あなたの考えを理由を添えて述べなさい。（3000字） 留意点： 各章のタイトルは疑問形式で付されている。その問いに対して、著者はどのように結論を導いているのか、またあなたはその結論に対してどのような考えを持ったのかを述べること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 梶川信行 教材名： 『額田王―熟田津に船乗りせむと一』（ミネルヴァ書房・2009年） ISBN:978-4-623-05598-2 3000円+税
	『万葉集』の女性歌人として名高い額田王は、生身の実態を持った存在とは考えられていない。本書では七世紀に実在した皇裔の一人で、文学作品である『万葉集』に「額田王」として名を遺した女性として捉えようとしている。かつ、こうして捉えた彼女の動きの中で、どのように作品が誕生したのかを考えている一書である。
参考図書	梶川信行『創られた万葉の歌人 額田王』（はなわ書房・2000年）、多田一臣『額田王論―万葉論集一』（若草書房・2001年）など。
履修上のポイント	『万葉集』に「額田王」として名を残した女性と、『日本書紀』に「額田姫王」として名を残した女性とは同一人物である。しかし、文学作品と歴史書という編纂目的が異なる書物では、同一人物であっても扱い方が異なる。その違いに留意すること。また、本書から資料の扱い方や資料の分析方法などの研究手法を学修してほしい。
レポート課題 1	「宮廷歌人」として、額田王はどのような役割を担っていたのかを、具体例を挙げながら説明しなさい。（3000字） 留意点： 「宮廷歌人」は古代の完了制度の中に存在しない名称である。いわゆる専門用語であるが、そうした名称で額田王を捉えることによって、どのような問題を孕んでいるのかについて留意してほしい。
レポート課題 2	天智挽歌群と持統朝の作品における額田王の作歌状況は、それまでの作品とは異なる。両者を比べた際、どのような変化が生じているのかをそれぞれ述べなさい。（3000字） 留意点： 天智天皇の死後、作歌状況において明らかな違いが見られる。例えば、天武天皇の時代の作品が一首も残されていないなどである。こうした違いを見逃さないでほしい。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章から第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章から第 4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 5 章から第 6 章
第 4 回	レポート課題 1：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容の再検討
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容について、レポート課題 2 に向けて学修の振り返り
第 9 回	教材学修：基本教材 1 の第 7 章から第 8 章
第 10 回	教材学修：基本教材 1 の第 9 章から第 10 章
第 11 回	教材学修：基本教材 1 の第 11 章から第 12 章
第 12 回	レポート課題 2：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：指導によるレポート内容の再検討
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 のプロローグ章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 1 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 2 章
第 4 回	レポート課題 1：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容の再検討
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：指導によるレポート内容について、レポート課題 2 に向けて学修の振り返り
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の第 3 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 のエピローグ章
第 12 回	レポート課題 2：参考文献や用例などの収集とレポートの構成を考える
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：指導によるレポート内容の再検討
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成